

(H22.12.02)

資料 - 4

# 十勝川中流部の河道掘削等を考える 上での様々な要素について

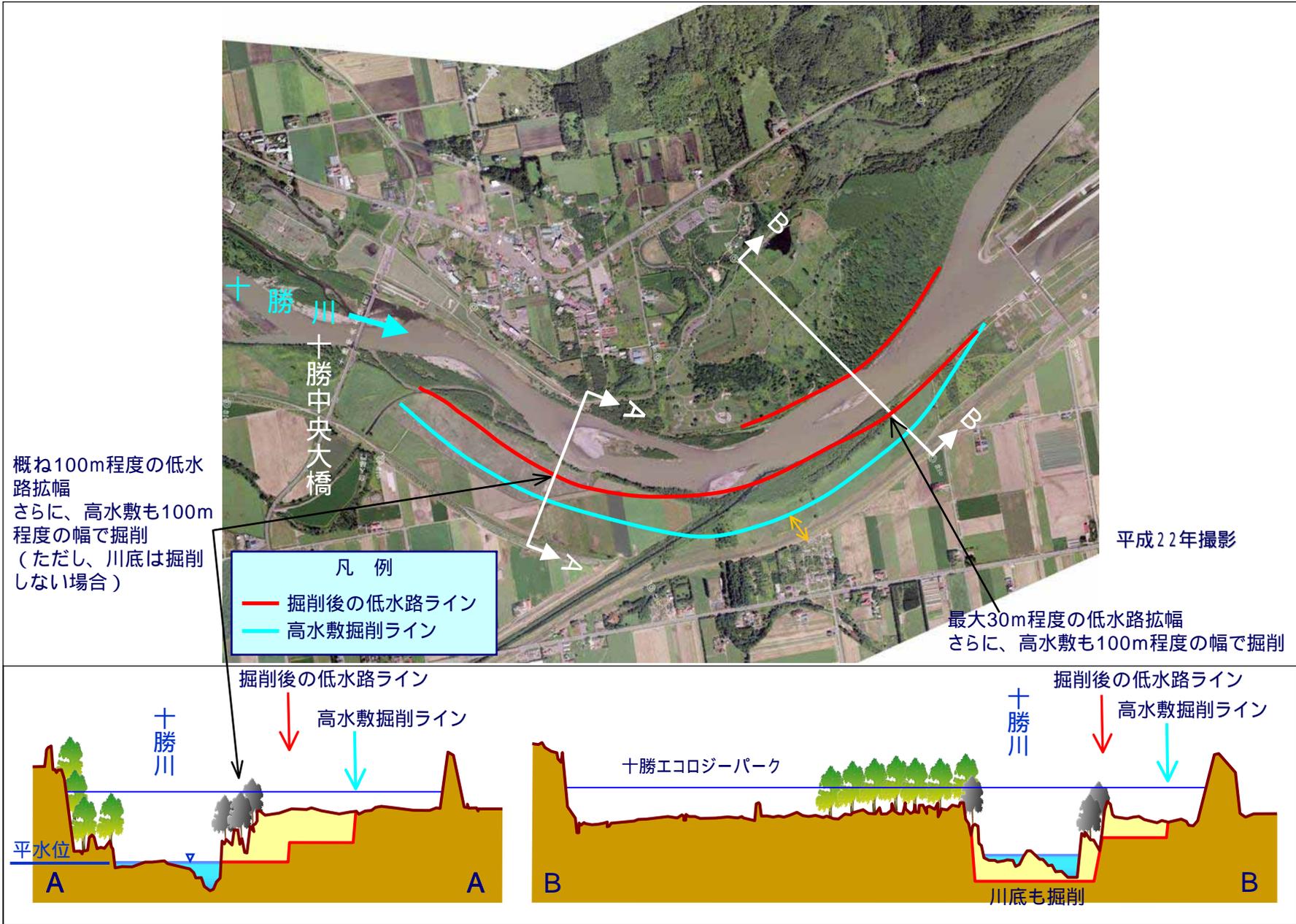
# 十勝川中流部の河道掘削等を考える 上での様々な要素について

- \* 河川空間には、河畔林や草原、水辺には瀬や淵、礫河原、多様な水深や流速、砂州、崖などの多様な環境があり、生物の生息・生育・繁殖の場になっているほか、公園などの整備が行われた箇所などでは地域住民の憩いの場ともなっている。
- \* さらに、川は、地域の景観をつくりだす重要な要素であるほか、多様な環境なども含めて、観光資源にもなっている。
- \* 河道掘削等の整備にあたっては、必要に応じて中流域を幾つかのゾーンに分けて、これらの各要素や多様な環境のバランスなどを考慮しながら考えていく必要がある。

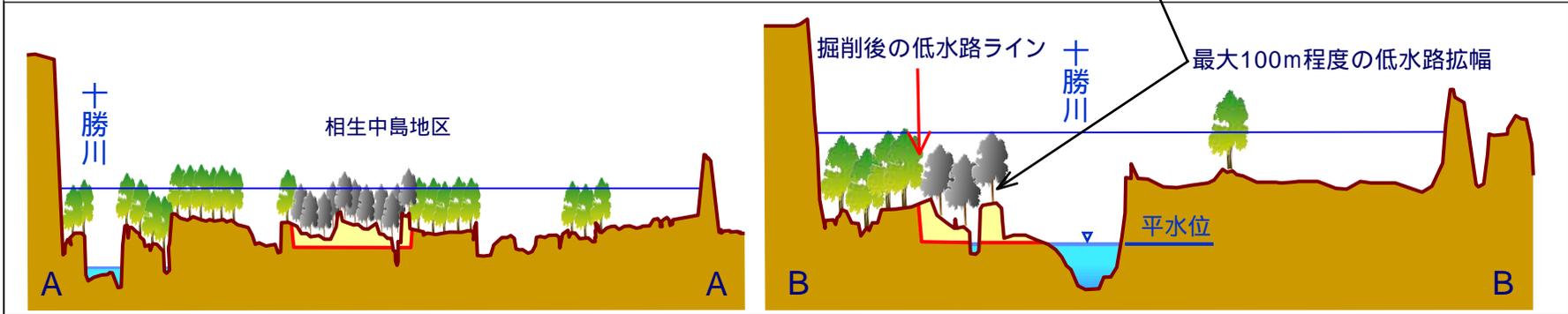
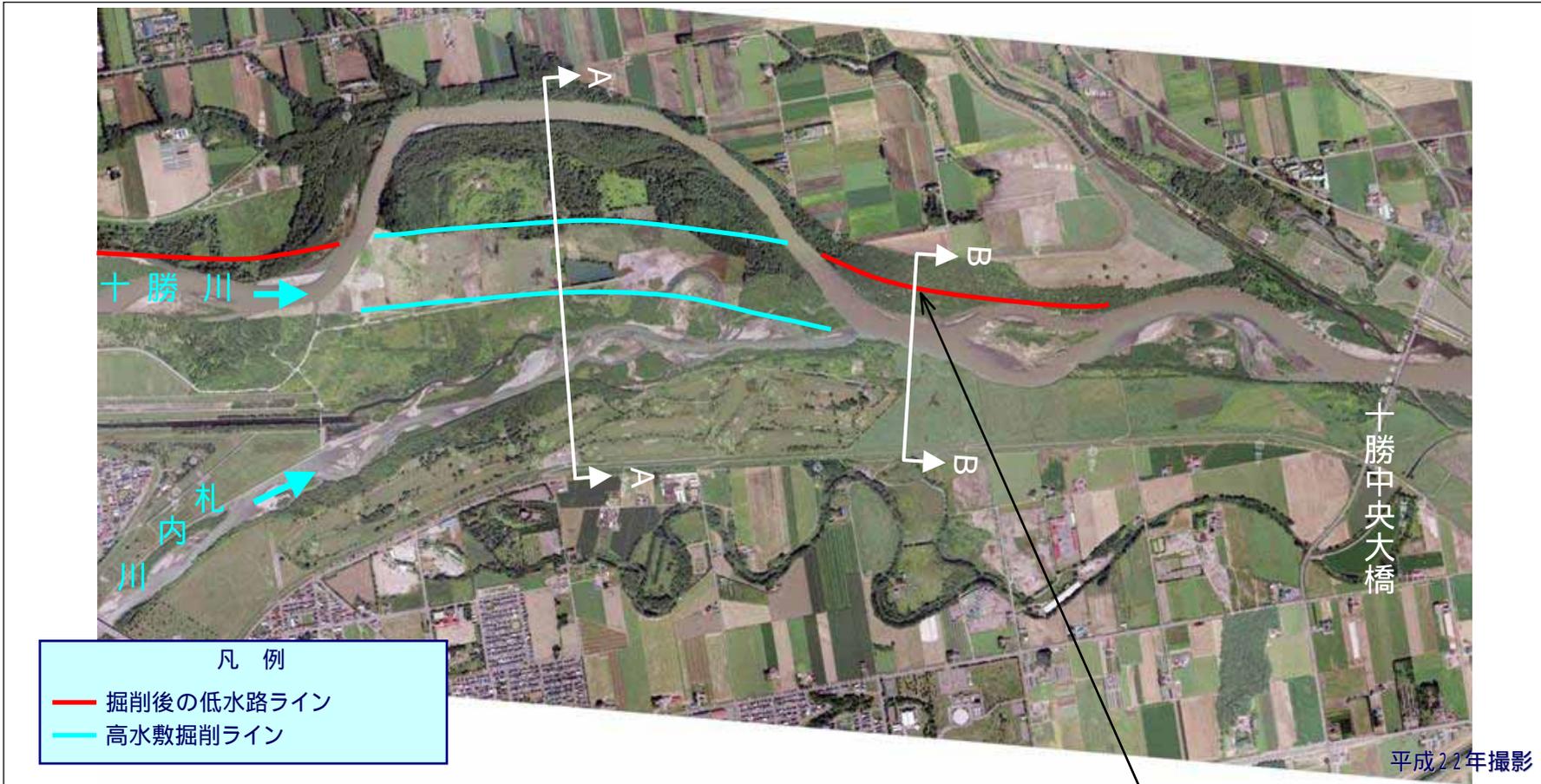
# 河川整備計画における 河道掘削のイメージについて

- \* 洪水を安全に流下させるため、流下断面が不足している区間においては、基本的に現況低水路の線形で、平水位程度の高さで低水路を拡幅することにより、川の自由度を高め、自然の営みによって河川環境の変化を期待。  
(平水位程度で掘削すると、融雪時期や中小出水などを含め年間の約半分の日数は水面下で流水にさらされる)
- \* 現況の低水路線形を重視することで、現在の高水敷利用や堤防などの構造物への影響は最小限にできる。

# 河川整備計画での掘削イメージ (十勝中央大橋より下流)



# 河川整備計画での掘削イメージ（相生中島地区より下流）



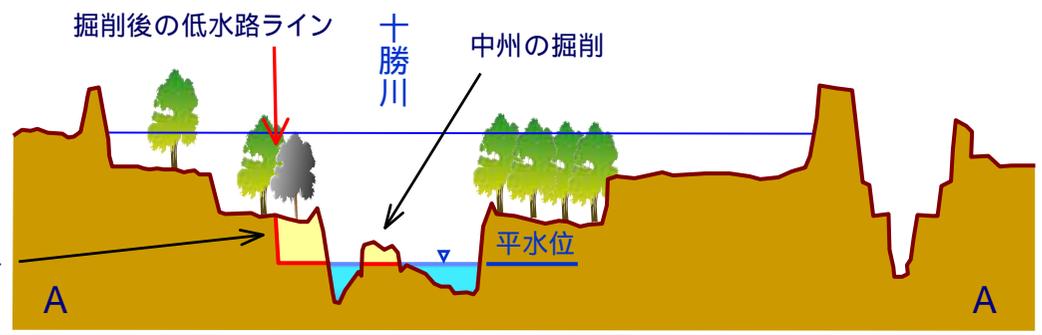
# 河川整備計画での掘削イメージ（音更川合流点より下流）



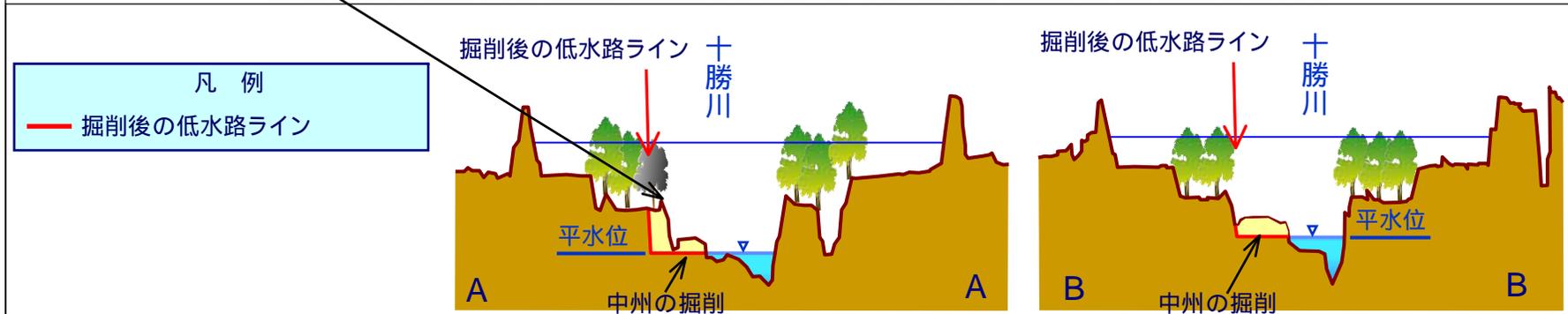
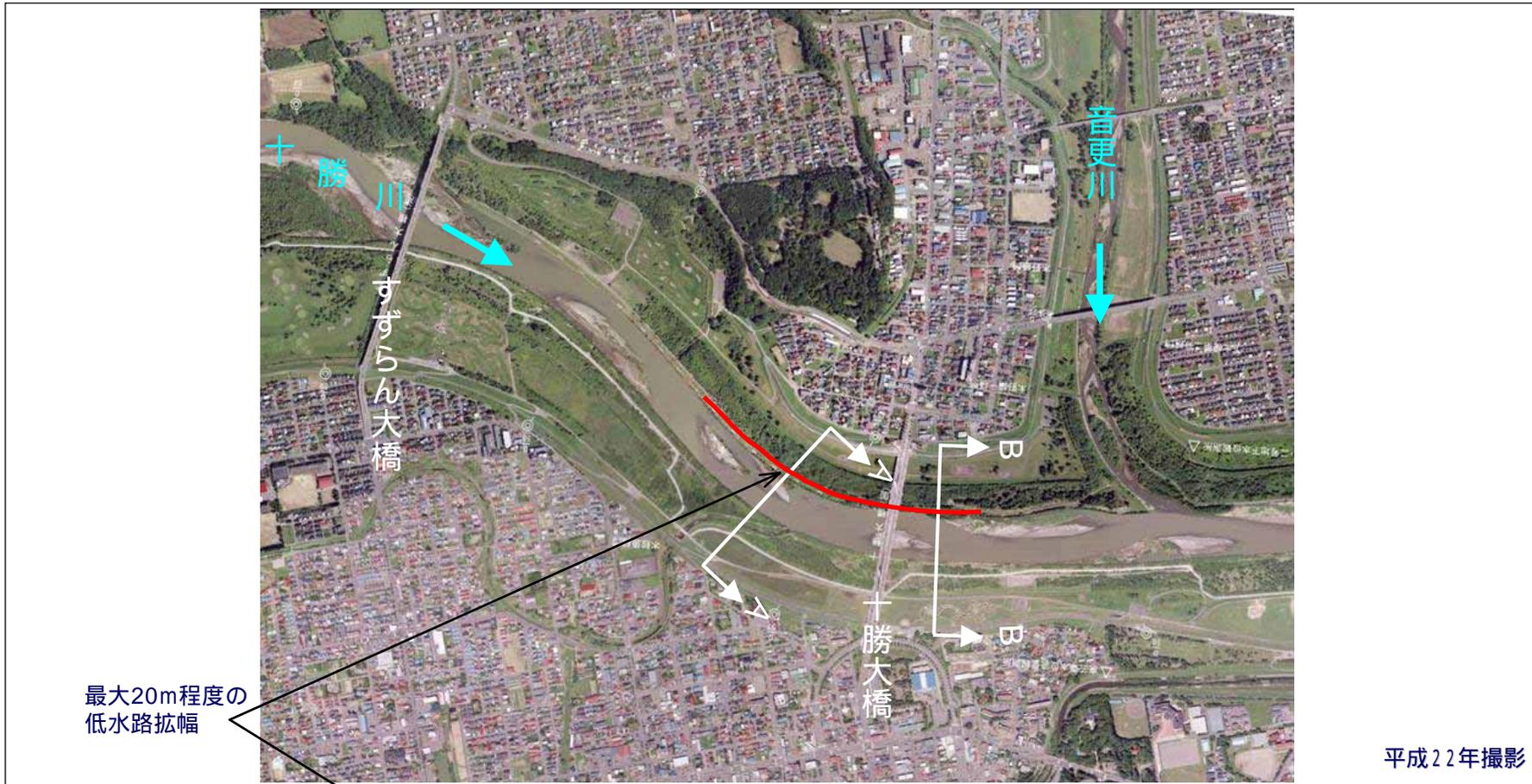
平成22年撮影

- 凡例
- 掘削後の低水路ライン
  - 高水敷掘削ライン

概ね現況の低水路線形で、40~50m程度の拡幅



# 河川整備計画での掘削イメージ (すずらん大橋より下流～音更川合流点まで)



# 今後、河道線形等を考える上での その他の要素

## 過去の低水路の平面形状

過去の蛇行していた低水路線形を参考にして、低水路等の拡幅を行い、少しでも昔の十勝川の蛇行形状などに近づける。

ただし、堤防間の幅や高水敷利用等から、大規模な低水路の切り替えは現実的には難しい面がある。

参考データ

昭和22年 空撮

大正11年 地形図

ただし、場所によっては、蛇行形状なども時代によって大きく変化している。

# 今後、河道線形等を考える上での その他の要素

## 現況の十勝川の蛇行形状や水衝部の位置

現況の水衝部の位置や低水路幅を広げた場合の蛇行形状等を考慮して、低水路等の拡幅を行うことで、蛇行のきっかけをつくり、自然の営みによる蛇行の促進を期待する。

ただし、蛇行が進み、堤防の安全性などが損なわれるおそれが生じた場合には新たに河岸保護工などが必要となる。

また、水衝部の崖等に依存する生物(カワセミ、ショウドウツバメ等)の現在の生育環境等が影響を受けるおそれがある。

# 今後、河道線形等を考える上での その他の要素

## 河畔林の伐採

年々増えてきている河畔林を優先的に伐採し、流下断面の不足分について、低水路等の拡幅を行うことで、掘削(改変)を小さくするとともに、開放感や見通しの良さ、ゴミの不法投棄の軽減、河川利用の促進などを期待する。

ただし、伐採跡地の再樹林化を防ぎ、草原として維持していくための工夫や維持管理が必要となるとともに、河畔林に依存する生物への配慮が必要。